

〔第4回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

栄養代謝調節経路の変容による 認知機能低下発症機構の解明

統合神経科学研究部

田口 明子_{部長}

2022年5月17日(火) 16時00分～
第1研究棟2階小会議室

高カロリー食の慢性的摂取により発症が促進される肥満・糖尿病は、認知症のリスク要因として広く知られるようになったが、最近の研究から、高齢期における肥満は認知症を抑制する事も明らかにされている。一方で、高齢期の低栄養・体重減少は、栄養エネルギー代謝および認知機能の低下とサルコペニアを誘導する危険因子である事に関心が高まっている。我々は、栄養状態の変化が認知機能・栄養エネルギー代謝およびその標的末梢組織へ与える影響について、病態モデルを用いて解析を行っているが、アウトカムは、中年期前後で異なることを見出している。他方、栄養輸送に関わるグリア細胞の栄養代謝調節経路の変化が全身の栄養エネルギー代謝と認知機能へ影響を与えることを突き止めたが、この時、中枢神経系で見られる変容は、アルツハイマー病（AD）患者剖検脳で観察される変化と一部重複することが明らかとなってきた。今回のセミナーでは、栄養状態・栄養エネルギー代謝・認知機能の関係について、最近の研究結果と共に議論したい。

座長：老化ストレス応答研究プロジェクトチーム

清水 孝彦 プロジェクトリーダー

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)